

学校法人 高崎健康福祉大学
理事長 須藤賢一氏

栃木県宇都宮市出身。北海道大学大学院農業研究科博士課程終了。農林水産省森林総合研究所成分利用研究室室長。カナダ・サスカチュワン大学化学工学科で研究。1991年から群馬女子短期大学副学長。同短期大学長、学校法人理事長、大学学長として現在に至る。群馬県私立大学協会会長。ぐんま地域・大学連携協議会会長。

学校法人 高崎健康福祉大学

TEL / 027-352-1290 FAX / 027-353-2055
㊤ 群馬県高崎市中大類町 37-1
E-mail / info@takasaki-u.ac.jp
http://www.takasaki-u.ac.jp/



特集 一人に寄り添い社会に応える一

地域医療に貢献、少子高齢化社会へ 向けて即戦力の人材を育成

即戦力となる専門性の高い人材を育成する『高崎健康福祉大学』。少人数制とゆとりある研究環境が学生を第一線へ送り出す最高の環境だ。「自利利他」の理念のもと、ボランティアなど市民活動に積極的に参加することで学生達に学問の深化や他者理解、市民意識の醸成を促している。

充実の教育環境で時代に
必要な専門家を育成していく

「人類の健康と福祉に貢献する」という建学の精神に則り、人を支える分野に特化した「高崎健康福祉大学」。1936年に和洋裁女学院として創立し、群馬女子短期大学を経て、現在の4年制大学へと展開した。高崎市郊外の豊かな環境の中に建つ同大学には保健医療・健康福祉・人間発達・薬学の4学部7学科と大学院が設置されており、2400人の学生が学んでいる。医療、福祉と教育は今後更に重視され進歩が求められる分野。同大学では、それぞれの分野で専門家として活躍し、役割を担える人材を育てることを目標にしている。「高崎健康福祉大学」の特徴は各学科1学年100名以下の少人数制を採用していること。学生の夢を実現させる為、責任を持った指導と支援を可能にする人数に抑えているという。これにより、質の高い学校教育を実現することができた。「少人数制にすることで、学生同士の意識も高くなるし、学生と先生の距離も近い関係になる」という作用があります。例えば、学生の中に国試対策委員会を作ってお互いが切磋琢磨して刺激し合うなど単に先生が学生を指導するだけでなく目的の実現のため学生の意識を高めることも先生と学生の近さから来ています。」そう語るのは須藤賢一理事長。

学生が夢を実現し、高度な専門性を追求できるようにと最新の設備、施設も十分に整備されている。「入学する学生は目的意識を持って入学してくる。大学として、入学する学生が真の自分の夢を達成できるように支援するのは当然の責務です。そして、人間としてきちんとしたものの見方ができる責任ある社会人を育て上げます」卒業生の就職先は医療機関や民間企業など様々。そのためには、キャリアアサポートセンターにキャリアカウンセラーを配置するなど就職支援も手厚い。看護師、管理栄養士、理学療法士などの合格率は100%かそれに近い成果を挙げている。海外の4大学との提携や交換留学の制度、全編英語の授業などグローバル教育にも熱心に力を注いでいる。そこには、グローバル社会に向けての須藤理事長の明確な考え方が反映している。「英語能力は必要だが、それだけでなくグローバル人材になるには日本の歴史・文化をきちんと把握し、人に伝えなければならない。日本の歴史・文化をきちんと語れて、外国人に紹介できることこそがグローバル人材の基本的条件だと思います」

現在、多くの大学は少子高齢化に伴って入学人数が激減する2018年問題に直面している。学校法人の経営者と大学学長を兼務し、法人運営、教育指導にも当たる須藤理事長はそれでも攻めの経営を力強く主張している。10月には整形外科と内科を備えた大学の付属ク



子どもと家族の健康を支援するセンターも設立。学生や職員などの内的資源を地域還元している。

リニックが開院する予定だ。高齢化対策の一端を担うことになるだろう。そして、アスリートや高齢者のためにリハビリテーションと訪問看護ステーションも設置される。地域医療に貢献しながら、学生に実践的な学びの場を提供することが狙いだ。また、全国的にも珍しい大学院での助産師の育成にも取り組んでいる。まだまだ問題も多いが、条件が整えば将来的には在宅医療も考えていると須藤理事長は語る。今後、少子高齢化が進むことで福祉の視点はあらゆる分野で必要とされることになるだろう。高齢化社会を見据えた教育方針と、それぞれの現場でも必要とされる専門家の育成は、これからの社会を支える大きな力になるはずだ。

(ライター/馬場紀衣)



特集 一人に寄り添い社会に応える一

産業廃棄物排出事業者を支える事業展開 最適リサイクルに導き循環型社会に寄与

産業廃棄物に関する環境省の驚くべきデータがある。2012年度末の産業廃棄物の不法投棄や不適正処理の残存量が1,777万トンにのぼる。こうした現状を改善すべく、『コネクトサービス』代表の平田晋作氏は、産業廃棄物の処理に悩む事業者の相談に乗り、親身に対応している。



有限会社 コネクトサービス 代表
平田晋作氏

産業廃棄物処理を行う会社に勤務、現場で経験を積んだ後、営業部門への配置換えを機に20歳で独立。経験を活かして産業廃棄物収集運搬を手掛ける事業を起し、取引で厚遇してくれた製薬会社の気持ちに応える意味を込めて2003年に法人化、代表になって現在に至る。

有限会社 コネクトサービス

TEL / 06-6336-2079 FAX / 06-6336-1101

大阪府豊中市豊南町東 3-15-4

http://www.connect-service.co.jp/

『有限会社コネクトサービス』代表の平田晋作氏が経営理念に「環境保全を通じて社会に貢献」を掲げ、関西を中心に産業廃棄物の収集運搬を行い、地域の事業活動を下支えしている。事業の柱は産業廃棄物の排出事業者から委託を受けての収集運搬だが、もう一つ力を入れているのが環境コーディネート業務。廃棄物を最適なリサイクル処理会社に取り次ぐ仕事だ。社名の「コネクト」には、排出とリサイクルの仲立ちという意味を込めている。廃プラスチック類の固形燃料化、廃油の再生重油原料化、動植物性残渣の混合飼料化、汚泥の土壌改良剤化など、廃棄物の種類、性質を見極めながら最適な処理法を示し、リサイクルに寄与する努力だ。

環境保全を通じての社会貢献を 理念に掲げ事業活動を支える

平田社長は「廃棄物による環境汚染や環境破壊が年々深刻化し、循環型社会を築くべき時代が到来しています。こうした時代の要請に応え社会に貢献できるように事業展開を図っています」と語る。7台のトラックをフル稼働させ、年間延べ約3000台分の産業廃棄物を取り扱う事業実績は、経営理念実践の証しだ。

(ライター/斎藤悠)

特集 一人に寄り添い社会に応える一

在宅医療専門の『ひだまりクリニック』 在宅だからこそできる医療がある

家族と思い出のある、住み慣れた環境での生活は人間らしく有意義に過ごすことに繋がる。「在宅医療」とは自分らしく過ごすための選択。定期的に医師が訪問しケアを行い急変時には24時間体制で駆けつけてくれる。豊かな療養生活を送る選択肢の一つだ。



ひだまりクリニック 院長
福田幹久氏

滋賀県医科大学卒業後、鳥取大学医学部第二外科入局。国立松江病院呼吸器外科医長を経て2004年に「ひだまりクリニック」を開業。医学博士。外科専門医。胸部外科認定医。消化器外科認定医。麻酔標榜医。産業医。

ひだまりクリニック

TEL / 0859-37-5188 FAX / 0859-37-5190

鳥取県米子市車尾南 1-12-41

E-mail / info@hidamarclinic.jp

http://www.hidamarclinic.jp/

人間らしく生きる、患者さんを尊重し、 家族が主役の選択肢

現在8割以上の人が病院で最期を迎えている。しかし60%以上の方が自宅で療養を望んでいるのも事実だ。退院後の在宅療養に自信がない、医療設備の問題で入院を余儀なくされている、そんな患者さんに第三の選択肢として「在宅医療」を提案する「ひだまりクリニック」。患者さんの立場に立ち、地域と連携しながら24時間対応でサポートする同クリニックの福田院長に在宅医療での家族に対してのケアや注意点を聞いた。病院では死に行く人にも人工呼吸器や胃瘻(いろう)、人工栄養などを使い延命させようとする。しかし、人工呼吸器はいったん付けると、医師は外せなくなる。患者さんは苦しみの中で生き続けることになるかもしれない。「どのような死に方をするのか。生前にその選択しておくことが必要な時代かもしれません」自宅であれば患者さんは本来の姿を見せることができる。しかし、家族の負担や症

状が急変したときの懸念などが在宅での療養を躊躇させている。住み慣れた自宅で過ごしたい人は多いだろう。だが、注意点もある。「病院では様々な処置があり、医師による看取りになってしまいますが、自分の家で看取る場合は、家族の方々が逝く方の手を取りしつかり看取ってほしい。看取りに慣れていない方がほとんどです。不安を少なくするための説明はできる限り丁寧に行います」通常の病院での外来診察は5分間程度だが、在宅医療ならば20分、30分とじっくり話を聞ける診察ができるメリットがある。延命治療を望む家族や、自然に看取りの時間を迎えて欲しいなど家族の要望は様々。しかし、それが正しいということはなく、大切なのは家族の思いを尊重する方法を考えることだという。

(ライター/馬場紀衣)